PRESS RELEASE
2026年10月15日

報道関係者各位

Asabis株式会社

# 【登壇者・参画企業発表】国際ヘンプ博覧会「JIHE 2026」、100以上の企業・団体・ブランドが参画、ヘンプ・CBDの国内外の専門家が2日間で議論｜11/13-14 東京・表参道

**オフィシャルスポンサーにControl Union・キセキグループ・TrueImports。米国・タイ・ガーナなど海外からも登壇し、栽培・品質管理から商品化、海外市場を議論。入場無料・事前登録受付中**

Asabis株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役：中澤亮太）は、一般社団法人 GREEN ZONE JAPAN（代表理事：正高佑志）との共催で、2026年11月13日（金）・14日（土）に東京・表参道「House of OMOTESANDO」で開催する、ヘンプ・CBDに関する日本最大級※1の国際展示会「JIHE（ジャイヘ）2026 Japan International Hemp Expo／国際ヘンプ博覧会」の参画企業・登壇者・プログラムを発表します。

出展・協賛、後援、メディア・コミュニティパートナー、登壇者の所属などを合わせ、100以上の企業・団体・ブランド等が参画します（※2）。オフィシャルスポンサーにはControl Union、キセキグループ、TrueImportsの3社が決定しました。カンファレンス「CannaCon」では、栽培・法規制から医薬品、品質管理、海外市場、商品化までをテーマにしたセッションと、国内外の先進的な取り組みを紹介する個別プレゼンテーションを予定し、米国・カナダ・タイ・ガーナ・ポルトガル・モンゴルなど海外からも登壇者を迎えます。セッション・登壇者・参画企業は現在も調整中で、決まり次第、順次追加してまいります。入場は無料（事前来場登録制）です。



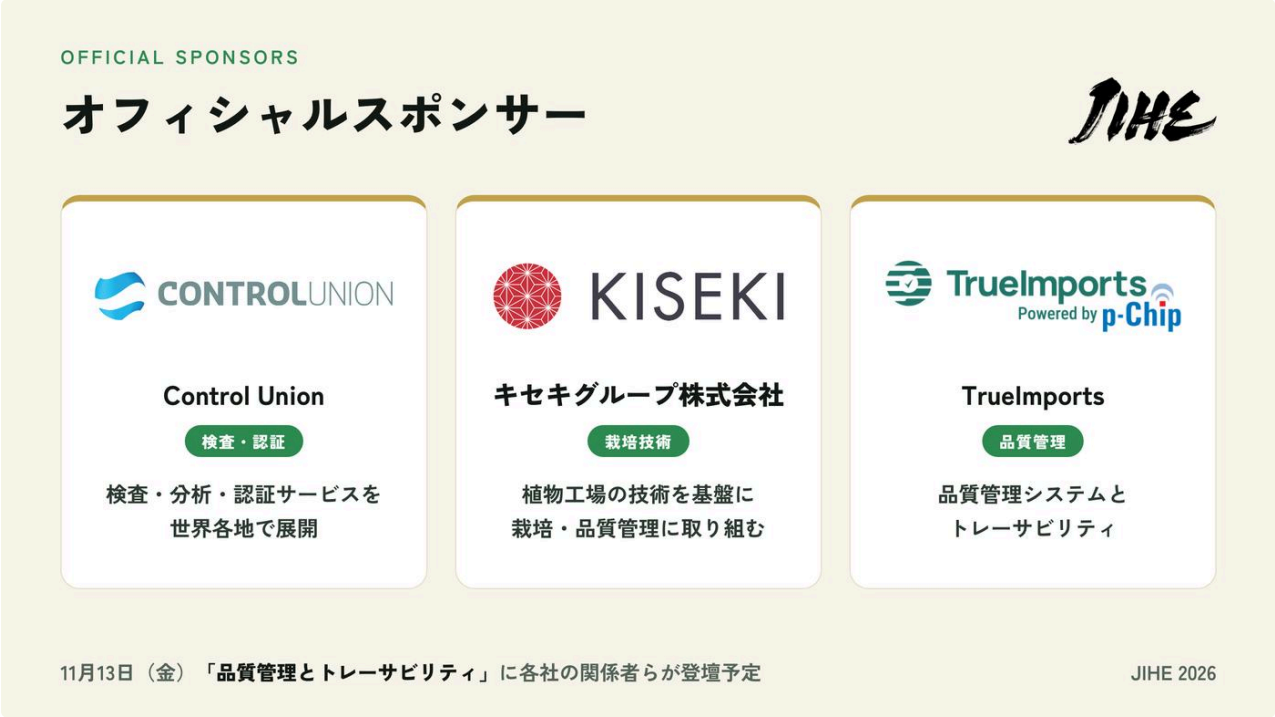

※1 日本最大級：2026年10月現在、CANNABIS INSIGHT調べ。

**来場登録：** Peatix（日本語） ／ Luma（English）

## 発表のポイント

- **100以上の企業・団体・ブランド等が参画**：後援10団体、メディアパートナー16媒体
- **オフィシャルスポンサー3社**：検査・認証のControl Union、植物工場技術のキセキグループ、品質管理システムのTrueImports
- **国内外の専門家が登壇するカンファレンス「CannaCon」**：栽培・法規制、医薬品、品質管理、海外市場、商品化の出口戦略まで、セッションと個別プレゼンテーションで議論。米国、カナダ、タイ、ガーナ、ポルトガル、モンゴルなどからも事業者・業界団体・メディアが登壇
- **米国ヘンプ産業のパネル**：米国産業用ヘンプ協議会（NIHC）の代表団らが、政府支援・国際貿易と日米連携の可能性を議論
- **順次追加中**：セッション・登壇者・参画企業は調整中のものがあり、決まり次第、公式サイトで順次お知らせします

## 検査・認証、栽培技術、品質管理を担う3社がオフィシャルスポンサーに




- Control Union：検査・分析・認証サービスを世界各地で展開するグループ。農業・繊維など幅広い分野の品質と持続可能性を支えています。
- **キセキグループ株式会社**：植物工場の技術を基盤に、栽培や品質管理に取り組んでいます。
- TrueImports：品質管理システムやトレーサビリティを通じて、法令に適合したサプライチェーンの構築に取り組んでいます。

11月13日（金）の「品質管理とトレーサビリティ――栽培から消費者までを一つに結ぶ」には、各社の関係者らが登壇予定です。栽培・加工から流通まで、製品の品質をどのように確かめ、消費者に届けるかを議論します。

## 国内の事業づくりと海外市場をつなぐカンファレンス「CannaCon」



JIHE 2025のカンファレンス会場（2025年11月）

日本では2025年3月に大麻草の栽培に関する新たな免許制度が施行されました。制度への対応、原料や製品の品質管理、消費者に届く商品設計など、産業の発展には複数の課題をともに考える必要があります。JIHEでは、国内外の事業者・研究者・医療従事者・業界団体が集まり、各分野の知見と実践を共有します。

### 11月13日（金）BUSINESS DAYのセッション

**日本の麻産業発展のために必要なこと——栽培・種子・育成・法規制を考える**

栽培への参入と産業の発展に必要な条件を、国内外の実践から探ります。モンゴル・ヘンプ協会のAnar Artur氏、HempstaticのElena Yaneva氏、Control Union（タイ）のStephan Moreels氏、The Hemp Plastic Companyなどを率いるPaul Benhaim氏、HEMP HUBの安味彩氏、かんな研究所の張ヶ谷毅氏が登壇予定です。進行はGREEN ZONE JAPANの三木直子氏が務めます。

**大麻由来医薬品が日本で使える日はくるのか？**

海外ですでに臨床で使われている大麻由来医薬品を日本の患者へ届けるために何が必要かを、国内導入の動向や開発・承認制度の課題とともに議論します。日本臨床カンナビノイド学会 理事長の太組一朗氏、キセキグループの山田耕平氏らが登壇予定。進行はGREEN ZONE JAPANの正高佑志氏が務めます。

**医療大麻とがん治療**

がん医療における症状への向き合い方と患者・家族の生活の質の支え方を、米国で緩和ケアとカンナビノイド療法の実践に携わってきた立場と、国内の精神腫瘍学の立場から話し合います。TrueImportsのMary Szomjassy Brown氏、国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科長の小川朝生氏、キセキグループの山田耕平氏が登壇予定。進行は三木直子氏が務めます。

**CBNの現状と不都合な真実**

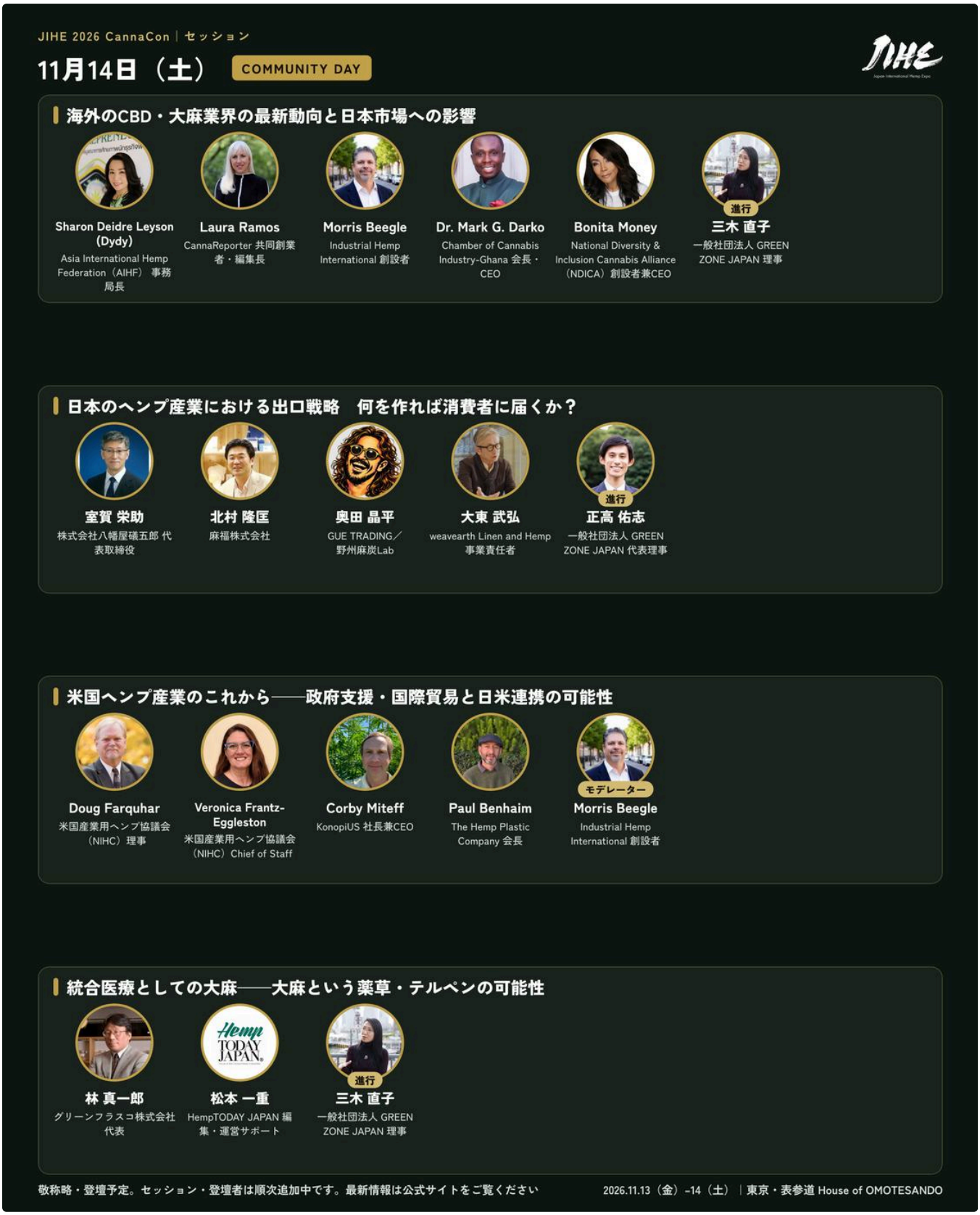
2026年6月から指定薬物として規制されたCBNについて、制度設計と判定の実際、診断書を発行する医師が直面する課題、患者の声から、規制の現状を多角的に検証します。太組一朗氏、Medical Green Clinicの疋田康祐氏、田園調布長田整形外科の長田優香氏、看護師の菊池星来氏が登壇予定。進行は正高佑志氏が務めます。




**品質管理とトレーサビリティ——栽培から消費者までを一つに結ぶ**

TrueImportsのMary Szomjassy Brown氏、Control Union（タイ）のStephan Moreels氏、p-Chip CorporationのMichael Hadjisavas氏、KCAラボジャパンの天野開翔氏、キセキグループの山田耕平氏が登壇予定。品質管理と情報の追跡を、栽培から消費者までの一連の流れで考えます。進行は三木直子氏が務めます。

## 11月14日（土）COMMUNITY DAYのセッション




### 海外のCBD・大麻業界の最新動向と日本市場への影響

各国・地域の制度や市場の変化を、日本市場への影響とともに紹介します。Asia International Hemp Federation（AIHF）事務局長のSharon Deidre Leyson（Dydy）氏、CannaReporterのLaura Ramos氏、Industrial Hemp InternationalのMorris Beegle氏、Chamber of Cannabis Industry-GhanaのDr. Mark G. Darko氏、National

Diversity & Inclusion Cannabis Alliance（NDICA）創設者兼CEOのBonita Money氏が登壇予定。進行は三木直子氏が務めます。

**日本のヘンプ産業における出口戦略　何を作れば消費者に届くか？**

八幡屋礒五郎の室賀栄助氏、麻福の北村隆匡氏、GUE TRADING／野州麻炭Labの奥田晶平氏、weavearth Linen and Hempの大東武弘氏が登壇予定。食品、伝統産業、繊維・素材の実践者が、ヘンプを商品として消費者に届けるための発想と課題を共有します。進行は正高佑志氏が務めます。

**米国ヘンプ産業のこれから――政府支援・国際貿易と日米連携の可能性**

米国産業用ヘンプ協議会（NIHC）の代表団らが登壇し、米国ヘンプ産業が向かう方向性、政府による支援、国際貿易の動向を議論します。あわせて、日本と米国の事業者・団体が連携していくための機会を探ります。NIHC理事のDoug Farquhar氏、同Chief of StaffのVeronica Frantz-Eggleston氏、KonopiUS 社長兼CEOのCorby Miteff氏、Paul Benhaim氏が登壇予定。モデレーターはMorris Beegle氏が務めます（英語）。

**統合医療としての大麻――大麻という薬草・テルペンの可能性**

古くから世界中で薬草として使われてきた大麻草を、カンナビノイド以外の植物成分、特にテルペンに注目して捉え直します。グリーンフラスコ株式会社 代表の林真一郎氏、HempTODAY JAPANの松本一重氏が登壇予定。進行は三木直子氏が務めます。

## 2日目午後は「CBD・ヘンプに関わる最先端の取り組みや事例」を紹介




11月14日（土）午後には、国内外の登壇者による個別プレゼンテーションを予定しています。

株式会社プラントライフシステムズ 代表取締役の松岡孝幸氏は「生産技術で拓く、純国産CBD原料の可能性 ― 大麻草の成長・成分制御と事業化への展望 ―」、Clairvoyant Lab 創業者・CEOのDr. Patrick Chin氏は「AIで変革する日本のヘンプ・CBD産業：GACP監査・コンプライアンスからスマートリテール、遠隔医療まで」をテーマに登壇します。このほか、Senti SolutionsのImran Rashid氏、Thai Stick Co., Ltd.のRehan Mehta氏、Canplant Solutions Inc.のTyler Mosher氏が登壇予定です。

2日目午後のプログラムの開始・終了時刻、個別プレゼンテーションの発表順・持ち時間は調整中です。最新の演題・プログラムと登壇者プロフィールは、公式サイトで順次お知らせします。

プログラムを見る ／ 登壇者を見る

## 100以上の企業・団体・ブランド等が参画、展示と対話から次の取引へ

会場では、ヘンプ・CBD製品に加え、原料、検査・分析、栽培技術、食品、繊維などの製品・技術・サービスを紹介します。展示ブースでの商談、カンファレンス、交流を通じて、日本市場への参入を検討する海外企業と、国内外で新たな取引先を探す日本企業の接点をつくります。



JIHE 2025の出展ブースでの交流の様子（2025年11月）

後援は、日本臨床カンナビノイド学会、全国大麻商工業協議会、欧州産業ヘンプ協会、HEMP HUB、米国産業用ヘンプ協議会、Chamber of Cannabis Industry, Ghana、Asia International Hemp Federation、北海道ヘンプ協会、麻産業創造開発機構、日本カンナビノイド協会の10団体。Business of Cannabis、CannaReporter、HEMP TODAY JAPAN、Trade Fair Times、StratCann、SHIRAFUなど16媒体がメディアパートナーとして参画します。

出展・協賛、パートナー、登壇者の所属を含む最新の参画一覧は、公式サイトの参画企業ページをご覧ください。

## 主催者コメント

「2024年12月の改正法施行から、まもなく2年が経ちます。日本のヘンプ・CBD市場は独自の規制のもとですでに動き出しており、大手企業の参入も始まっています。いま問われているのは、品質管理やトレーサビリティ、コンプライアンスといった『信頼の基盤』をどう築くかです。JIHE 2026では、国内外の事業者・研究者・業界団体が一堂に会し、栽培から商品化、海外市場までの議論を具体的な事業につなげていきたいと考えています。」

（Asabis株式会社 代表取締役 中澤亮太）




2026年10月14日時点。公式サイトの全107掲載先。ロゴ未取得等の5件は名称で掲載。




前回・JIHE 2025の展示フロア（2025年11月・東京・新宿「LUMINE 0」）。2026年は会場を表参道に移して開催します。

## 会期前日から2日間の構成




- **11月12日（木）前日 AIHF International Consultation**：Asia International Hemp Federation（AIHF）が主催し、日本のヘンプ規制・基準・事業化をテーマに、産業用ヘンプ繊維とヘンプ由来カンナビノイドの2つのラウンドテーブルを行う国際ステークホルダー協議です。13:00〜17:30頃、招待／応募制。詳細は公式サイトの案内ページをご覧ください。
- **11月13日（金）BUSINESS DAY**：展示ブースでの商談とカンファレンスを中心に、事業者同士の出会いと情報交換の機会を設けます。18:30頃からは全体懇親会（有料・事前申込制）を予定しています。
- **11月14日（土）COMMUNITY DAY**：展示・販売やカンファレンスを通じて、ヘンプ・CBDの製品や取り組みを幅広い来場者に紹介します。

## 法令に適合した事業と、産業・医療をめぐる議論の場



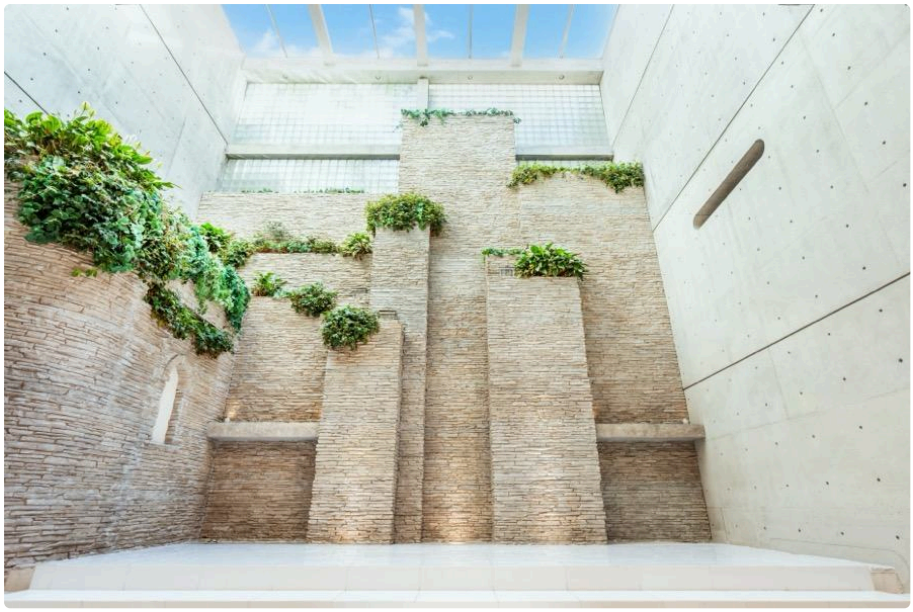

出展・協賛の対象は、日本の法令に適合した製品を扱う企業と、産業用ヘンプの素材・製品、検査・分析、原料、流通などの関連事業者です。新規合成カンナビノイドを扱う企業の出展/サンプル配布等は受け付けず、展示・販売・配布・講演での推奨も認めていません。

カンファレンスでは、産業用ヘンプと医療用途について、国内外の制度・市場・研究・品質管理を踏まえて議論します。JIHEは嗜好用大麻の合法化を主張する場ではありません。

## 開催概要




会場 House of OMOTESANDO の外観（開催イメージ）



館内の様子（House of OMOTESANDO）

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| 名称 | JIHE（ジャイヘ）2026 Japan International Hemp Expo／国際ヘンプ博覧会 |
| テーマ | 偏見の向こうに、原点がある。（Break the Bias, Back to ORIGIN.） |
| 会期 | 2026年11月13日（金）・14日（土） |
| 時間 | 両日10:30開場。13日（金）は22:00閉場（夜の全体懇親会を含む）、14日（土）は18:00閉場。各プログラムの開催時間は公式サイトをご確認ください。 |
| 会場 | House of OMOTESANDO（ハウスオブ表参道）〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-34-8 |
| アクセス | 「渋谷駅」B1出口から徒歩約6分／「表参道駅」B2出口から徒歩約10分 |
| 入場料 | 無料・事前来場登録制。全体懇親会など一部プログラムは有料 |
| 主催 | Asabis株式会社 |
| 共催 | 一般社団法人 GREEN ZONE JAPAN |
| 公式サイト | https://jihe.asabis.co.jp/ja |
| 来場登録 | 日本語：https://jihe2026.peatix.com/ ／ English：https://luma.com/hpztknzq |

※プログラム・登壇者は変更となる場合があります。

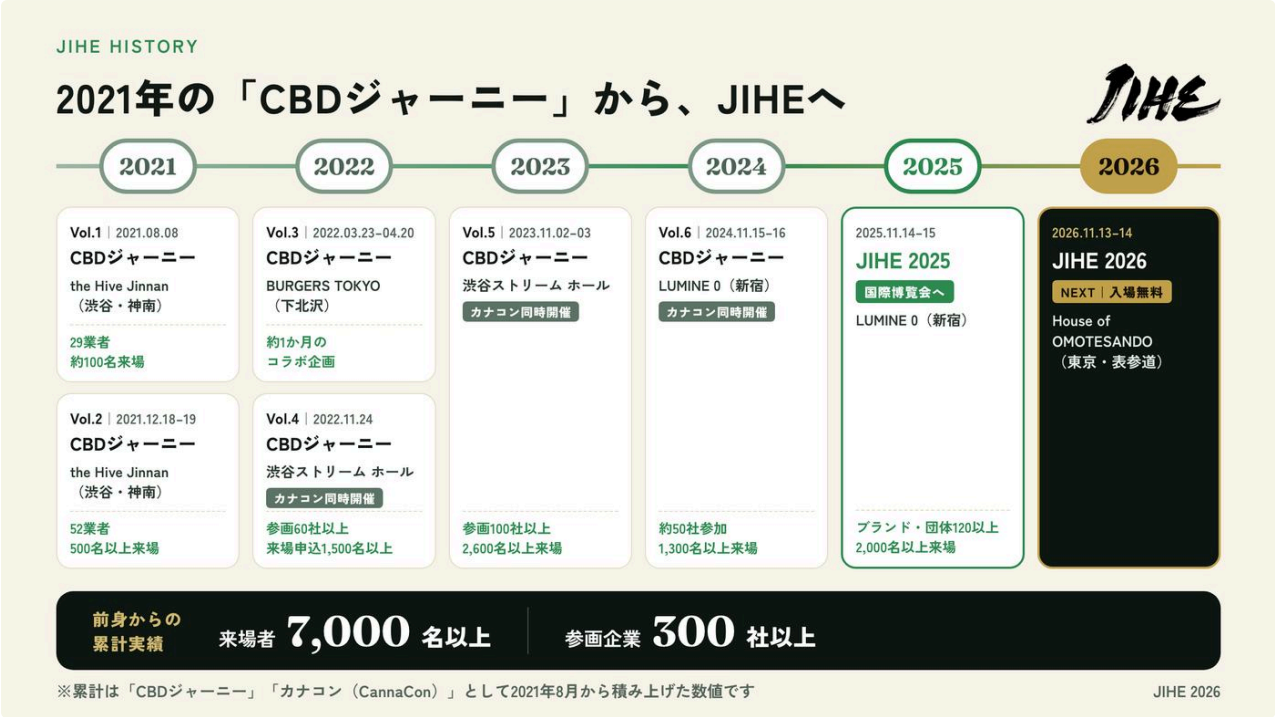
## 報道関係者の皆様へ

会期当日の取材に加え、会期前の主催者インタビューや出展企業のご紹介も承ります。会期中は会場で主催者に直接取材いただけます。登壇者へのインタビューは、ご希望を伺い個別に調整します。

取材をご希望の方は、件名を「JIHE 2026 取材申込」とし、媒体名、ご担当者名・ご連絡先、取材希望日、ご来場人数、インタビューのご希望を **info@asabis.co.jp** までお送りください。

キービジュアル・ロゴ・会場写真などは、公式サイトのメディアページで公開しています。登壇者写真、セッション一覧の表データ、前回（2025年）の会場写真などは、広報窓口からお送りします。

## JIHE（ジャイヘ／国際ヘンプ博覧会）について




JIHEは、2021年から続く「CBDジャーニー」「カナコン（CannaCon）」を前身とするヘンプ・CBDの国際展示会＆カンファレンスです。前身からの累計で来場者7,000名以上、参画企業300社以上の実績があります。国内外の事業者、研究者、業界団体、メディアが集まり、産業の現在とこれからを共有する場として開催しています。

**主催：Asabis株式会社**

日本のヘンプ・CBD産業のインフラづくりに取り組む企業。業界メディア／コミュニティ「CBD部」を運営し、「CBDジャーニー」「JIHE」を主催。代表取締役：中澤亮太。

**共催：一般社団法人 GREEN ZONE JAPAN**

医療大麻に関する研究の進展や海外の実情を国内に伝える一般社団法人。医療・産業大麻を専門としたカンファレンス「CannaCon」を主催。代表理事：正高佑志。

※2 2026年10月14日時点。出展・協賛、後援、メディア・コミュニティパートナー、登壇者の所属、主催・共催・運営・協力先を含む公式サイト掲載先107件を集計。企業とは別に個別ブランド・サービス・媒体も1件として数え、複数の役割で参加する同一掲載先は重複を除いています。

**本リリースに関するお問い合わせ**

JIHE 2026事務局　広報担当：高野雅治

メール：info@asabis.co.jp